

平成 27 年度 岩手県学習定着度状況調査結果報告書

1 調査についての基本的な考え方

学習定着度状況調査は、児童生徒の実態や指導の状況を評価し分析するツールの一つであり、県教育委員会のもとより、各市町村教育委員会、各小中学校において調査結果を分析し、学習内容の定着の状況や指導の状況を検証し、指導の充実や授業の改善に向けて活用していくためのものである。

2 調査のねらい・内容等

各小中学校において児童生徒一人一人の学習の定着状況を把握し、その結果を基に指導の充実を図ること。

全県規模で学習の定着状況を把握し、明らかになった学習指導上の問題点を教育施策に反映させることにより、本県児童生徒の学力向上に資すること。

【調査実施日】 平成 27 年 10 月 7 日（水）

【調査対象】

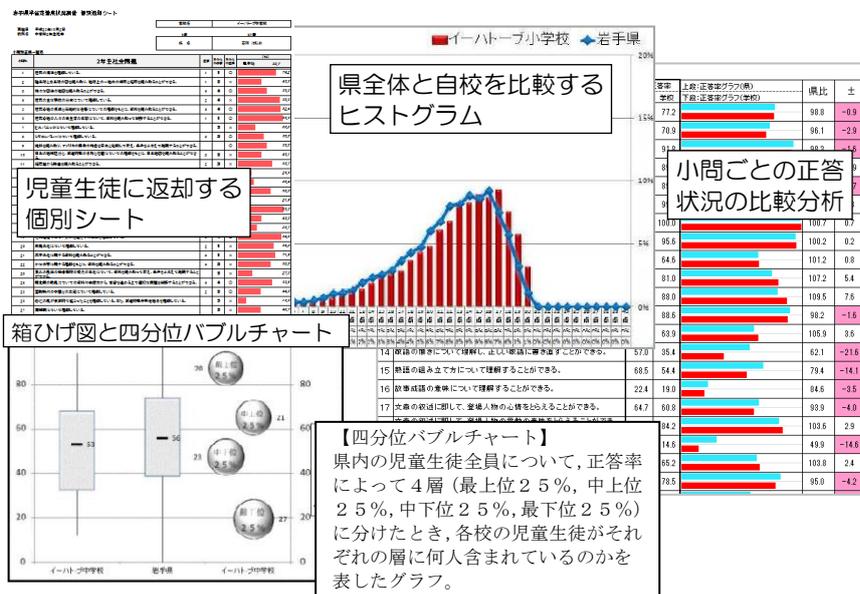
- (1) 小学校：第 5 学年 国語・社会・算数・理科
- (2) 中学校：第 2 学年 国語・社会・数学・理科・英語
- (3) 小・中学校共通（小学校第 5 学年，中学校第 2 学年）：質問紙調査

【調査人数】

- (1) 小学校（335 校）
 - 第 5 学年 国語（10,348 人） 社会（10,346 人） 算数（10,343 人）
 - 理科（10,347 人） 質問紙（10,375 人）
- (2) 中学校（167 校）
 - 第 2 学年 国語（11,126 人） 社会（11,118 人） 数学（11,116 人）
 - 理科（11,116 人） 英語（11,114 人） 質問紙（11,154 人）

3 集計・分析シートを活用

平成 25 年度から、総合教育センターが開発した「集計・分析シート」（エクセルファイル）を活用している。これにより、提供されるデータを各学校の実態や課題に即して主体的に活用できるようになり、「見るデータ」から「使うデータ」への転換を、より一層図っている。



- ①各校が自校採点結果を入力した時点で、即時に自校の状況を把握し、指導改善に活用
- ②提供される県データを貼り付けると、県との比較分析も可能
- ③エクセル活用により、県で提供する分析のほかにも、各校の創意工夫で様々な分析が可能
- ④各校でシートを保管するため、経年比較等データ蓄積が可能
- ⑤「入力者の制限」「アクセス集中」など、これまでのシステムの課題を解決

4 教科調査結果の概要

(1) 各教科の概要

① 各教科の平均正答率及び中央値

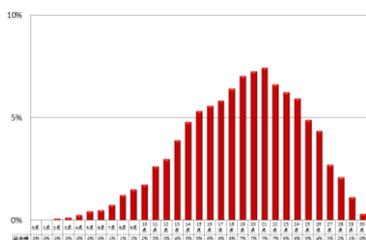
学年	教科	平均正答率(%)	中央値	学年	教科	平均正答率(%)	中央値
小5	国語	63	63.3	中2	国語	66	66.7
	社会	71	73.3		社会	46	43.3
	算数	73	79.4		数学	53	53.1
	理科	68	70.0		理科	56	55.9
			英語		48	43.8	

注1) 中央値：代表値の一つで、有限個のデータを小さい順に並べたとき中央に位置する値。本調査の場合、全対象者を正答率順に並べて、ちょうど真ん中に位置する者の値を指す。

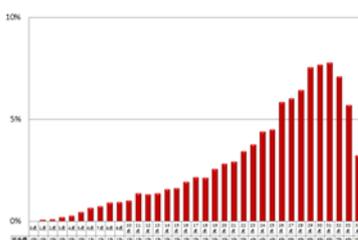
注2) ヒストグラムの縦軸は人数の割合、横軸は正答数。

② 各教科の正答数分布状況

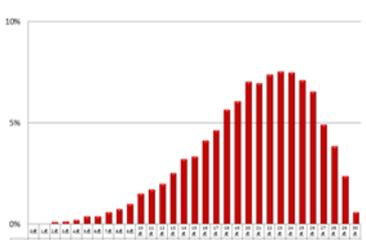
◆小学校5年国語



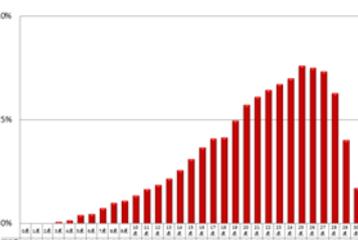
◆小学校5年算数



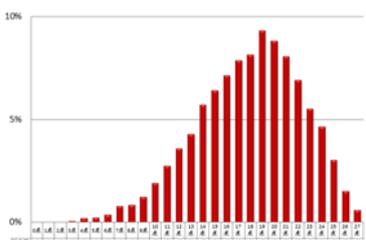
◆小学校5年理科



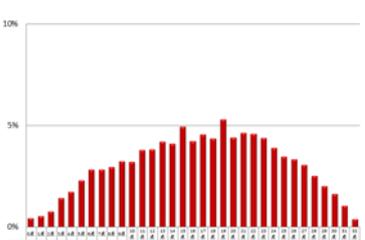
◆小学校5年社会



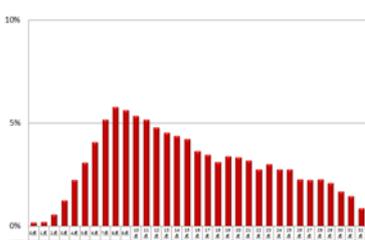
◆中学校2年国語



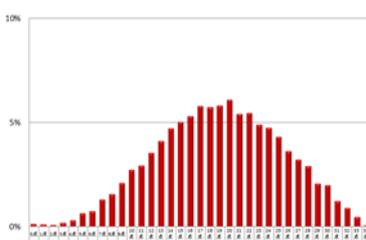
◆中学校2年数学



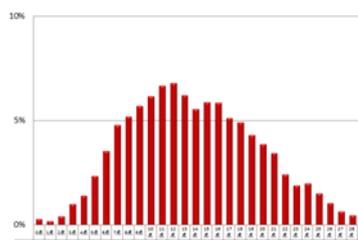
◆中学校2年英語



◆中学校2年理科



◆中学校2年社会

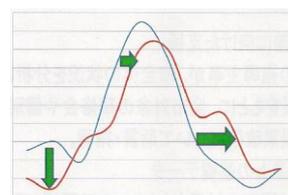
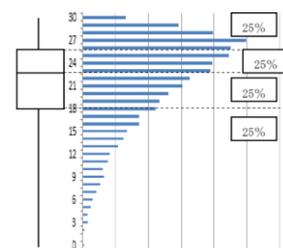
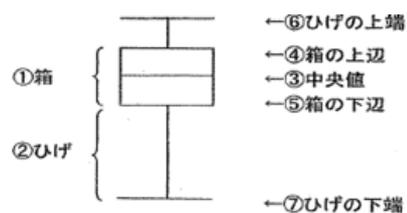


参考) 箱ひげ図とヒストグラムについて

「箱ひげ図」は、ある集団の値の分布の状況を箱(①)とひげ(②)で視覚的に表したものである。箱の中程には、中央値(③)が示され、中央値からはこの両端(④と⑤)までの間にそれぞれ集団の25%(つまり箱の中には集団の50%)が含まれる。また、正規分布においては、箱から伸びるひげの上端(⑥)からひげの下端(⑦)の間に集団の約99%が含まれる。集団の値の分布がばらついていた、偏っていたりする場合には、平均値を代表的な値とするより分布の形状に注目した方がよいことが多く、箱ひげ図はこうした分布の形状を確認することに適した図である。

一方、「ヒストグラム」は、集団の分布状況を棒グラフで表示したものである。縦軸に度数分布表の頻度を取り、横軸にデータ区間をとる。各教科のヒストグラムは、縦軸に人数割合を、横軸に正答小問数を1問ずつとっている。一般的なヒストグラムの分析の視点としては、1)中心の位置、2)ばらつき状態、3)分布の形、4)飛び離れた値の有無などがある。例えば、右の図は箱ひげ図とヒストグラムを並べて示したものだが、分布の偏り具合や山の高さなど、集団の分布状況がグラフの形から一目で把握できる利点がある。

県ではこれまで、「平均値に偏ったデータ分析」の状況を改善するため、箱ひげ図など様々なデータ分析の手法を紹介・提供してきた。各校では、平均正答率の状況に加えて、箱やひげの長さに着目して集団の分布状況を比較したり、箱とひげの分岐点から集団を4分割して各グループの解答状況を分析したりするなど、データを主体的に活用・分析する状況が見られてきた。今後も、これまで同様に、各校の創意工夫を生かした分析が望まれる。その際に、例えばヒストグラムの横軸を学校の状況に応じて正答率で10分割するなどして各層の課題状況を分析したり、ヒストグラムの形に着目して望ましい集団の分布状況のイメージを教員間で共有し(右図参照)、その実現に向けた方策を各教科等で検討したりするなど、児童生徒の学力保障に向けた取組の充実を図っていく必要がある。



③ 分布状況から見える主な特徴等

ア 成果

- ・ 多くの教科において、正答数が極端に少ないグラフ左端の層がほとんどいない。
- ・ 小学校の正答数の分布状況を見ると、グラフ右側に山があり概ね良好である。
- ・ 中学2年の理科では、昨年度より中央の山が高くなり、分布のばらつきに改善傾向が見られた。

イ 課題

- ・ 正答数が多いグラフ右端の層が薄い状況である。これは、全国学力・学習状況調査の結果と同じ傾向であり、中央値付近の児童生徒をさらに右側の層に押し上げるような指導を工夫する必要がある。
- ・ 中学2年の数学では、中央の山が昨年度以上に低くなり、分布のばらつきが大きくなった。
- ・ 中学2年の英語や社会では、山がグラフの左側にあり、それらの要因について各小問の状況など細かな分析を行っていく必要がある。
- ・ それぞれの教科において無解答率の高い問題が見られ、特に中学2年の数学や社会では、説明をする問題についての無解答率が2～3割となっている。児童生徒に対して、問題文の内容をしっかりと捉えて解答できるよう読解力を高めたり、複数の資料から情報を適切に読み取らせたり、関連付けて考えさせたりする指導を単元計画の中に位置付けて意図的に取り組ませる必要がある。また、根拠(資料)の取り上げ方が不十分であってもそれま

での考え方を認め、より一層正しい解答に迫るために必要な根拠（資料）や表現を考えさせながら徐々に説明の精度を高めるなど、最後まであきらめずに自分の考えを記述させるような日常の指導が大切である。

- ・ 県学調と全国学調の結果を併せて見てみると、下学年における定着状況の課題が、その後の調査で正答率の上昇は見られるものの、解決されずに継続する状況が見られる。（例：中学2年数学の文章題から連立方程式を立式する問題の正答率 H26 中2 県学調 29%, H27 中3 全国学調 35%, H27 県学調 34%）当該学年の課題はその年度のうちに確実に解決を図るよう取り組むとともに、その後の学年においても課題意識を継続しながら、機会を捉えて新たな学習内容の中に位置付けて指導するなど、繰り返し指導を行うことが大切である。

（2）経年比較問題の状況

各教科で、過去の調査において課題が見られた問題等について、その改善状況を把握するために、経年比較問題を出題した。これらは、過去に出題された問題の類題（同一問題ではなく、同構造同内容の問題）で、各教科とも小問数全体の2～3割程度出題している。

各教科における経年比較問題の状況

（ ）内は昨年度数値

教科	学年	経年比較 問題数	課題状況の改善 が見られた問題	改善傾向が見られたが引き続き 注視が必要な問題	依然として課題 が継続している 問題
国語	小5	6 (6)	1 (0)	0 (1)	5 (5)
	中2	6 (6)	1 (0)	2 (0)	3 (6)
算数 数学	小5	11 (12)	0 (0)	3 (3)	8 (9)
	中2	9 (8)	0 (1)	3 (2)	6 (5)
英語	中2	7 (6)	1 (0)	4 (1)	2 (5)
理科	小5	12 (9)	7 (2)	1 (4)	4 (3)
	中2	13 (13)	2 (4)	4 (4)	7 (5)
社会	小5	8 (-)	3 (-)	1 (-)	4 (-)
	中2	9 (7)	0 (0)	5 (3)	4 (4)
全体		81 (67)	15 (7)	23 (18)	43 (42)

※「課題状況の改善が見られた問題」とは、前回調査より大きく正答率が伸び、概ね満足できる状況にある問題を指す。

※「改善傾向が見られたが引き続き注視が必要な問題」とは、前回調査より正答率が5ポイント以上伸びたが、まだ満足できる状況とは言えない問題を指す。

※「依然として課題が継続している問題」とは、前回調査からの正答率の伸びが5ポイント未満の問題を指す。

※小5社会は昨年度から実施のため、昨年度の経年比較問題はない。

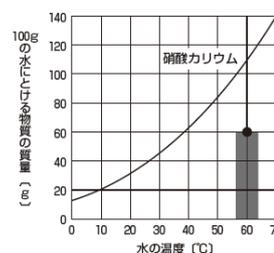
教科調査の課題を分析する際には、教科の学習内容として捉えるだけでなく、他教科の学習内容と関連させながら捉える必要がある。

例えば、右の中学2年理科の問題④の水溶液の濃度を求める問題では、溶媒と溶質それぞれの質量の合計を全体量とした上で割合を求める必要があるが、水溶液の性質について本質的な理解が十分ではない状況が見られた。

④ 水溶液と物質のとけ方について調べるために、次のような実験を行いました。グラフは、硝酸カリウムの溶解度曲線を表しています。これについて、あとの(1)、(2)の問いに答えなさい。

〈実験〉

- 60℃の水 100 g を入れたビーカーに、硝酸カリウム 60 g を入れてよくかき混ぜたところ、硝酸カリウムがすべてとけた。
- この水溶液の温度をゆっくりと 10℃ まで下げたところ、ビーカーの底に結晶が出てくるのが見えた。この結晶を、ろ過を行ってとり出した。



(1) 実験の①でつくった硝酸カリウム水溶液の質量パーセント濃度を求める式として、正しいものはどれですか。次の1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

- $\frac{60}{100} \times 100$
- $\frac{60}{100 + 60} \times 100$
- $\frac{100}{60} \times 100$
- $\frac{100}{100 + 60} \times 100$

一方、昨年度調査で、実際の計算により濃度を求める問題の県正答率は18%であることから、濃度を求める式については理解しているが、実際の計算により濃度を求めることができない生徒が多いことが明らかとなった。

割合を求める際の計算は、小学校算数や中学校数学の学習と関係が深い。与えられた状況の中で求める数値を割り出すには、それぞれの計算の意味を理解し、状況に応じて自分で正しく立式する力が必要であり、併せて確実な計算技能を身に付けておくことが求められる。このように、教科調査の課題を分析する際、教科の学習内容として捉えるだけでなく、他教科の学習内容と関連させながら捉える必要がある。

① 成果

- ア 経年比較問題全体の状況を見ると、課題状況が改善されたのが約2割弱(昨年度1割)、改善傾向が3割弱(昨年度2割強)と、改善の状況が見られる割合が増加している。
- イ 小学5年の理科では、経年比較問題12問中、課題状況が改善されたのが7問あり、大きく改善が図られたと言える。
- ウ 中学2年の英語では、経年比較問題7問中、5問で5ポイント以上正答率が上がっており、各学校での取組の成果が表れた。

② 課題

依然として課題が継続しているものが5割以上という状況にある。課題が継続している一つの要因として、調査結果を当該年度の課題としてのみ受け止め、毎年継続している課題であるという十分な認識に至っていないことが推察される。そのため、当該年度の児童生徒に対する補充指導は行うものの、日常の授業改善や指導計画の見直しに反映させる取組には至っていない状況が見られる。

(3) 活用問題の状況

これまでの県学習定着度状況調査や全国学力・学習状況調査の結果から、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る問題に課題が見られることから、各教科において、活用に関する問題を全体の1～2割程度出題した。

各教科における活用問題の状況

()内は昨年度数値

教科	学年	問題数	活用問題の平均正答率	教科	学年	問題数	活用問題の平均正答率
国語	小5	5 (4)	54(41)	算数 数学	小5	3 (4)	74(72)
	中2	7 (7)	51(52)		中2	5 (5)	50(32)
理科	小5	5 (5)	62(71)	社会	小5	4 (4)	54(65)
	中2	4 (4)	40(45)		中2	4 (4)	47(38)
英語	中2	5 (5)	40(48)				

教科毎に見ると、小学5年算数と中学2年社会以外の学年・教科で、活用問題の平均正答率が教科全体の平均正答率を下回っており、いずれの教科においても活用問題が課題である状況が分かる。

活用問題は、生徒の思考力・判断力・表現力を問う問題であり、こうした問題に対応するためには、日常の授業における言語活動の充実が鍵となる。

例えば、次の小学5年国語問題⑤においては、文章を読んで「温暖化が漁業と農業にあたるえいきょう」についてポスターにまとめるために、中心となる言葉を文章から抜き出すことができるかを見る調査問題である。取り上げている内容の中心を捉えながら文章を読み、目的に応じて必要な部分を選択したり整理したりする思考・判断・表現する力が求められる。

(2) 学校の授業以外の学習時間について

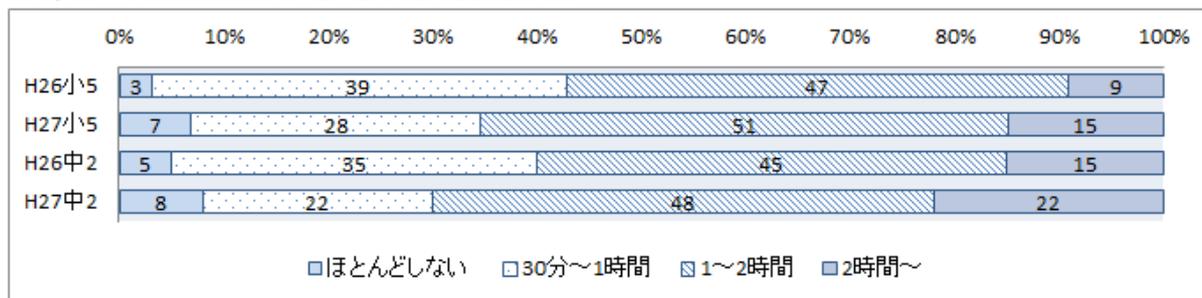
小学5年・中学2年ともに、昨年度より1時間以上2時間未満、2時間以上と回答した児童生徒の割合が増加している。しかしながら、ほとんど学習しない生徒の割合もわずかではあるが増加しており、1時間未満の児童生徒も含めて、家庭での有効な時間の使い方について、本年度増えているテレビ等の視聴時間(質問事項7 p18)や、中2の約2割が2時間以上、約4割が1時間以上使用している携帯電話・スマートフォンの利用時間(質問事項9 p18)と合わせて指導することが求められる。

また、家庭学習の内容(学校質問紙 質問事項16 p25)については、家庭で調べたり文章を書いたりするような課題を工夫して与えるなど、質的な指導を充実させる必要がある。

さらに、児童生徒の体力・健康面を考慮し、家庭学習時間を保障するためにも、帰宅時刻が遅くなる様々な活動(学校質問紙 質問事項30 p26)については学校からの働きかけも必要である。

学習内容のより確実な定着のために、授業との関連を図った課題の内容や出し方等を工夫することによって学習意欲を喚起するとともに、一日の生活の過ごし方を見つめ直すなど、学習意欲と学習環境の両面から、家庭学習の充実を目指した取組をより一層進めていく必要がある。

質問事項10:学校の授業以外で、1日にどのくらい勉強しますか。



(3) 児童生徒の自己肯定感に関する項目について

「自分にはよいところがあると思いますか」(質問事項4 p18)

小学5年で3ポイント、中学2年で5ポイント上昇しているが、学年が上がるごとに肯定的回答が減少しており課題である。これは今年度の全国学調でも同様の結果(肯定的回答は小6で74.2%,中3で65.0%)が出ており、今後も望ましい日々の教科等の指導や学級経営、生活指導、集団活動等を通して、児童生徒の所属感や連帯感を深めるなど、指導を工夫していく必要がある。

(4) 「課題克服のための重点方策」の取組について

県教育委員会では、昨年「課題克服のための重点方策」として次の3項目を示した。

- ア 明確な学習課題の設定と児童生徒の定着の把握を軸とした、「わかる授業」の確立
- イ 児童生徒の学力保障に向けた学校の組織的対応の強化
- ウ 県学調・全国学調等の諸調査を検証機会として活用した指導改善のサイクル化

これらの取組の状況を確認するため、児童生徒及び学校質問紙において実態を調査した。

ア 「明確な学習課題の設定と児童生徒の定着の把握を軸とした、『わかる授業』の確立」について

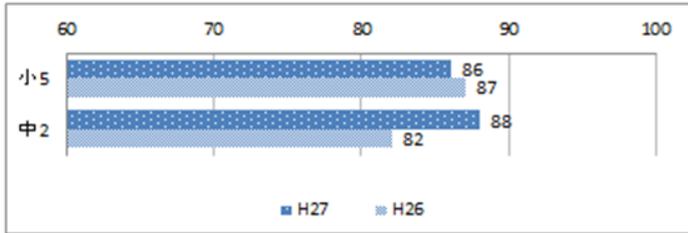
① 「学習課題（見通し）」と「まとめ（学習の振り返り）」を板書に位置付ける

学校質問紙では、ほぼ全ての学校でこれらの取組について肯定的回答をしている。（次のグラフで「学校質問紙」は積極的肯定の「あてはまる」のみを表示した）これに対し、児童生徒の肯定的回答は、小中ともほぼ8割を越え、今年度4月の全国学調でも同様の結果が見られることから、「見通し」と「振り返り」の場면을授業に位置付ける授業改善の取組は、各学校で着実に取り組まれてきていることが分かる。特に、中学校の生徒質問紙においては、両項目とも昨年度を6～7ポイント上回った。

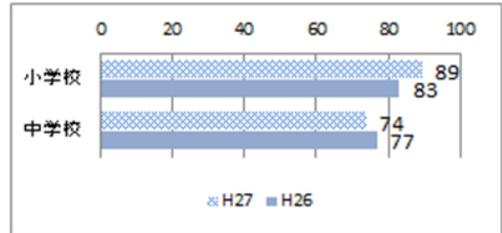
ただし、「見通し」に比べると「振り返り」の場면을位置付けている学校はまだ十分ではない状況である。授業のまとめの段階で「学習のまとめ」を自分で考えてノートに記述させたり、本時の学びを自覚させるために、自分の思考過程や変容（考えられなかったことを考えられるようになった、表現できなかったことを表現できるようになった等）、本時でできるようになったことや分からなかったことなどを、視点を与えてノートにまとめさせたりといった、「振り返り」場面においてより一層の質的向上を図る必要がある。

質問事項25 普通の授業で、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)を確認していると思いますか。

【児童生徒質問紙】肯定的回答

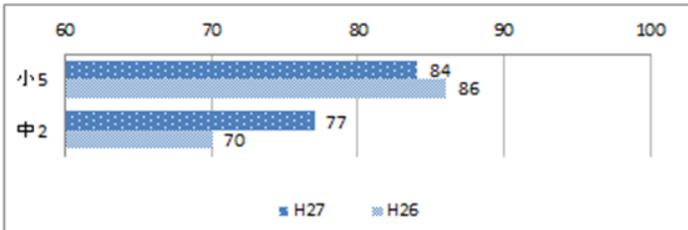


【学校質問紙】あてはまる

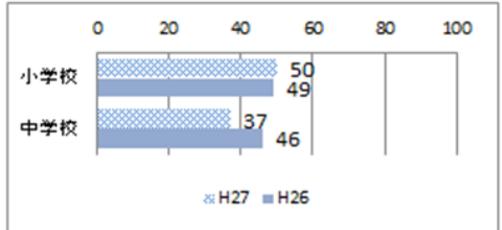


質問事項26 普通の授業で、最後に学習する内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

【児童生徒質問紙】肯定的回答



【学校質問紙】あてはまる



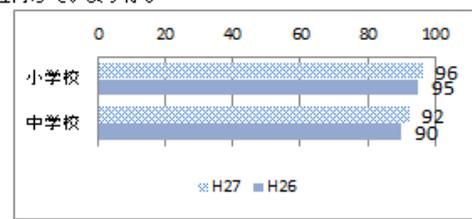
② 指導目標が達成できたかどうかを教師が確認する場면을授業に位置付ける

肯定的な回答が小・中学校とも9割を越えているが、「よく行っている」という積極的肯定の割合は、小・中学校とも2割程度にとどまっている。

学校質問紙では、積極的肯定の数値が学校としての「組織的取組」の状況を強く反映していると考えられることから、この部分については、学校としての取組がまだ十分ではないことが伺える。例えば、本時のゴールとして「この評価問題を解くことができれば目標達成」という1問を準備して、振り返りの前（後）の場面で児童生徒に取り組みさせることで指導目標が達成できたかを確認するなど、学校として全ての教員が共通実践することも一つの方法である。

質問事項6: 本時の指導が達成できたかどうかを、教師が確認する場면을授業に位置付けていますか。

学校種	年	よく抑っている			
		よく抑っている	どちらかといえば抑っている	あまり抑っていない	全く抑っていない
小学校	H27	23	73	4	0
	H26	30	65	5	0
中学校	H27	20	72	8	0
	H26	27	63	10	0



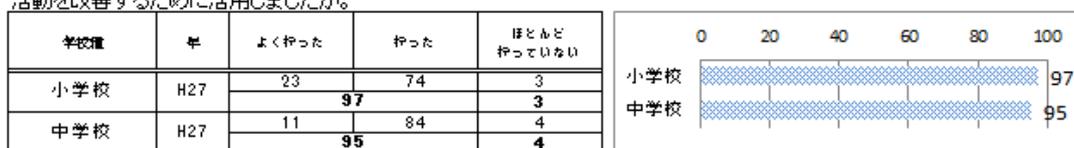
イ 「児童生徒の学力保障に向けた学校の組織的対応の強化」について

③ 諸調査結果を、教科を越えて横断的に、学年や校種を越えて縦断的に捉えて分析し、学校全体で共有する

肯定的な回答が、小・中学校ともにほぼ9割以上となっているが、「よく行った、積極的に行っている」と回答した学校は多いとは言えず、昨年を下回っている状況が見られる。

本年度提供した中学校新入生学習状況調査出身小学校別データや高等学校1年基礎力確認調査出身中学校別データを活用し、学年や校種を越えた縦断的な見方による分析や校種間連携、系統的な指導の充実に役立てることが大切である。また、教科調査で示したような教科を越えた横断的な見方による分析により、教科をまたいだ課題が明らかとなるため、今まで以上に教科の壁を越えた共通実践に取り組みやすい条件がそろい、学校の組織的対応にも繋がる。

質問事項22:昨年度の諸調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。



質問事項28:昨年度の県学習定着度状況調査の「集計・分析シート」の内容等から、学習に関する状況や課題を全ての教員で共有し、学校として組織的に課題の分析や指導方法の改善等に取り組んでいますか。



④ 言語活動の充実を図る取組や基礎的な内容の継続的な指導など、学校体制の中で共通実践に取り組む

小・中学校ともに、肯定的な回答が9割を越えている。多くの学校で、言語活動の充実を図る取組や基礎的な内容の定着に取り組んでいる実態が分かるが、「積極的に行っている、よく行っている」という積極的な肯定に注目すると、特に基礎的な内容の定着において、小学校に比較して中学校が低い状況にとどまっている。教科調査で見たような継続している課題や教科横断的な課題に対応するためにも、学校として基礎的な内容の定着を図るための取組について、学校体制の中で共通実践に取り組む必要がある。

質問事項3:言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、(小学校外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。



質問事項17:基礎的な内容の問題に、年間を通じて計画的・継続的に取り組ませていますか。



⑤ 全校授業研や少人数による教員相互の授業参観を計画的に位置付けるとともに教科等の枠を越え、子どもにとって「わかる授業」だったかという観点から参観後の授業評価を行う

小学校、中学校ともに、肯定的回答は8割を越えているが、本年度は小中ともに「積極的に行っている」という積極的肯定回答が昨年度を下回る結果となった。

全校授業研や少人数による教員相互の授業参観の実効性をより高めるために、例えば、研究部や研究主任のリードにより事前研究を実質化させたり、あえて教科の壁を越えたチームによる共同での事前検討を試みたりすることで、より組織的対応を強化させることも考えられる。

今後は、教員相互の授業参観に学校として組織的に取り組むとともに、チームによる事前研究、授業参観後の情報共有の在り方など参観が相互の授業力向上につながるような取組の質的向上のための工夫が必要である。

質問事項25: 授業改善に向けて、校内研修に位置付けた教員相互の授業参観に取り組んでいますか。



ウ 「県学調・全国学調等の諸調査を検証機会として活用した指導改善のサイクル化」について

⑥ 県学調の「調査結果活用レポート」を活用し、指導改善のサイクル化を図る

学校の組織的な対応と調査結果を活用した取組の推進状況を把握するための調査項目である。小・中学校ともに、肯定的な回答が昨年度を上回り7割～8割と高い状況にあるが、「積極的に行っている」という積極的肯定回答に限定すると、小学校で15%、中学校では6%にとどまっており、組織的な取組が依然として進んでいない状況が明らかになっている。

全国学調の結果の活用についても同様の状況が調査結果から明らかになっており、特に中学校で、全国の取組状況との差が見られている。県教育委員会として、学校の組織的な対応と調査結果を活用した取組の推進について、「先進実践校」の取組の共有化を図るなどして強化していきたい。

質問事項29: 昨年度の「調査結果活用レポート」に記載した調査結果の分析内容や目標設定、取組計画などについて、年度をまたいで教職員間で共有し、指導改善に向けて活用していますか。



6 今後の取組

(1) 課題克服のための重点目標と具体的取組

県教育委員会では、今回の学習定着度状況調査や全国学力・学習状況調査等の結果等を踏まえ、各学校・各先生方が取り組むべき「課題克服のための重点目標と具体的取組」を次のように提示する。

<重点目標>

諸調査結果を活用した「学校の組織的対応の強化」

児童生徒に確かな学力を保障するために、客観的なデータ（エビデンス）をより一層効果的に活用しながら、何が課題であるのか、そのつまずきはなぜ生じているのかについて、指導方法のみならず学校体制を含めた解決の手立てを学校内で検討し、全職員が当事者として取り組む。

<具体的取組>

ア 前年度内に作成した「調査結果活用レポート」を活用し、各学校における検証改善のサイクル（CAPDサイクル）を構築する

- ① 「調査結果活用レポート」の内容について全職員が共通理解していること
- ② 「誰が」「何を」「いつ」「どのように」について明確にして取り組むこと

CAPDの各段階のポイント

- C…意識調査との相関分析を行うなど、多面的な分析から課題を明確にすること
- A…明らかになった課題に対して、解決するための手立てを立案すること
- P…自校の実態に合わせ、検証可能な目標を設定し、年間の取組計画を立案すること
- D…随時、進捗を確認したり、振り返ったりしながら取り組むこと

イ 全職員で取り組む校内体制の整備と実践

- ① 学級や教科、学年の壁を越えて組織的な対応を図るための校内体制を見直し、主任層（教務主任や研究主任等）が中核となった取組を展開すること
- ② 授業力向上を目指した教員相互の授業参観を計画的に行い、その授業参観の視点として「いわての授業づくり3つの視点」を参考とすること（p14, 15 参照）
- ③ 県学調や全国学調の問題を全教員が解いてみる機会を設定するなどして、今求められている学力についての理解を深め、日常の授業と関連させて指導し、児童生徒に定着させること

ウ 校種間連携の一層の推進

- ① 中学校新入生学習状況調査や高校基礎力確認調査の結果を有効な資料として活用した校種間連携を図ること
- ② 小問分析から見えた課題を校種間で共有し、学習指導における解決策を探ること

(2) 「確かな学び、豊かな学びプロジェクト」(p12, 13) と「いわての授業づくり3つの視点」(p14, 15)

県教育委員会では、平成26年11月発行のリーフレット「確かな学び、豊かな学びプロジェクト」において、児童生徒の学力保障の取組を推進するために、学力との相関関係が見られる授業の要素を示しました。今回、これらの要素を授業場面における児童生徒の姿として、「いわての授業づくり3つの視点」に位置付け、全県で授業の充実に取り組むこととしました。

県教育委員会では、「いわての授業づくり3つの視点」を、日常の授業づくりや授業の検証、研究協議の視点等として活用することで、授業改善に役立てたいと考えています。この視点で、児童生徒の「確かな学び、豊かな学び」の実現に向けて全県で共通実践し、学校での組織的対応を展開することで、岩手の児童生徒一人一人に学力を保障し、豊かな人間の育成を図りたいと考えています。

確かな学び、豊かな学びプロジェクト

—豊かな学力保障のための全県共通展開を目指して—
(全ての小中学校による共通の取組)

岩手県教育委員会
義務教育担当
平成 26 年 11 月

学力向上の目的とは・・・「豊かな人間にすること」

考えられなかったことを考えられるようにする

判断できなかったことを判断できるようにする

表現できなかったことを表現できるようにする



上記のことを実現していくために、調査等を活用して学力を保障していくための組織的対応とは

調査問題・調査結果
へのアプローチ

A 教科としてどう見るか、学級としてどうみるかという見方

B 教科を越えて横断的に、学年や校種を越えて縦断的にとらえる見方

A+Bのシステム化 = 組織的な対応

※ 特に、結果を固有の教科、固有の集団の問題とせず、その背景や関連性を見つめ、「全て」の教科、領域、学習活動に共通するものとして、授業改善を学校改善にまで引き上げていくことが重要

学力との相関が見られる授業の要素（学習活動や言語活動、場や機会の設定）

【全国学力・学習状況調査において学力との相関が見られた質問項目】

※：裏面には、H26 全国学調での本県児童生徒のデータがあります。

【確かな学びの創造】

- 見通しと振り返りの機会の設定【県学調共通項目】※
- 明確な課題提示と学習プロセスの明示
- 自分の考えを発表する機会の確保※
- 理由や根拠をもとに分かりやすい文章を書く場の設定【県学調共通項目】※
- 調べたり文章を書いたりする宿題の設定

【豊かな学びの創造】

- 様々な考えを出し、思考を深める場の設定【県学調共通項目】
- 発言や活動の場の設定【県学調共通項目】※
- 物事を関連づけながら考えをまとめる場の設定
- 資料を活用しながら発表する場の設定【県学調共通項目】※
- 発展的な学習に取り組む場の設定

A問題、B問題ともに正答率との相関がある質問紙調査の項目です。岩手県学習定着度状況調査の質問紙と共通項目もあります。各校における学力保障に向けた手立てを探るための多面的な分析の視点として参考にしながら、授業へ具体的に反映していきましょう。

↓
＜全県共通取組＞ 分析に終わらず、上記の要素を全ての学習活動の中で意識し、授業等に計画的に位置付け、
確かで豊かな学びを実現していく。

「わかる授業」のチェック項目

詳しくは、『わかる授業』づくりのためのリーフレット【数学】を参照

授業前	1	『充実した教材分析』を行っていたか。
	2	『目標の吟味』を行っていたか。
	3	『生徒の実態を踏まえた展開案』を作成していたか。
授業中	4	『学習課題の把握』をしっかりとさせることができたか。
	5	『学習課題の解決に適した数学的活動』に取り組ませることができたか。
	6	『定着の時間確保』がなされていたか。
	7	『本時の学習を振り返る場面』を設定することができたか。
	8	留意事項 『生徒一人一人の考えを生かした授業』になっていたか。
	9	『構造的な板書』になっていたか。
授業後	10	『適切な自己評価』をさせるための指示を出していたか。

左記の 10 項目は、平成 25 年度に数学の有識者会議で検討を重ね、「わかる授業」に必要な要素を措定したもので

平成 26 年度全国学力・学習状況調査（岩手県）における質問紙調査と正答率の相関

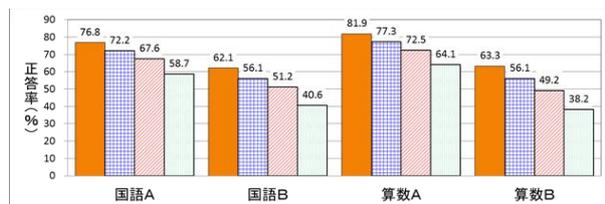
***** 確かな学びの創造 *****

自分の考えを発表する機会の確保

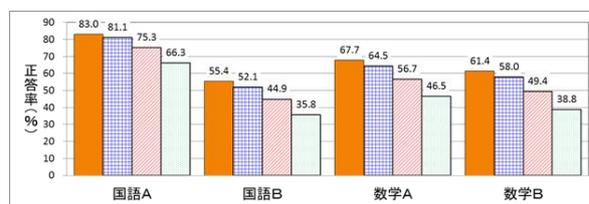
(一部抜粋)

児童生徒質問紙(42)：「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」

<小学校>



<中学校>



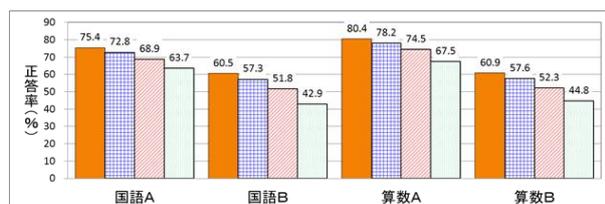
***** 豊かな学びの創造 *****

発言や活動の場の設定

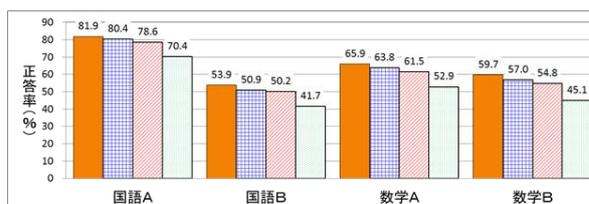
(一部抜粋)

児童生徒質問紙 (43)：「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」

<小学校>



<中学校>



条件整備・・・学校生活全体における言語環境の整備

学校における言語活動の充実に向けた取組は、授業の中だけで行われるものではなく、例えば、教室掲示に学習の言語スキルに関する内容も取り入れるなど、学校生活全体の言語環境を整えていくことが大切です。

- ① 教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと
- ② 校内の掲示物やポスター、児童（生徒）に配付する印刷物において用語や文字を適正に使用すること
- ③ 校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと
- ④ 適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること
- ⑤ 教師と児童（生徒）、児童（生徒）相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること
- ⑥ 児童（生徒）が集団の中で安心して話ができるような教師と児童（生徒）、児童（生徒）相互の好ましい人間関係を築くこと 等



【生活面に偏らず、学習面（用語やスキル）の掲示物の整備】

—宮古市立磯鶏小学校—

—学習指導要領解説 総則編より—

確かな学び、豊かな学びプロジェクト

～一人一人の学力を保障し、豊かな人間を育成する～

岩手県教育委員会

平成 27 年 12 月 1 日

県教育委員会では、平成 26 年 11 月発行のリーフレット「確かな学び、豊かな学びプロジェクト」において、学力との相関関係が見られる授業の要素を、「確かな学びの創造（5項目）」「豊かな学びの創造（5項目）」として示しました。

今回、これらの要素を「いわての授業づくり3つの視点」に位置付け、授業づくりや授業の検証に役立てたいと考えました。この視点で、児童生徒の「確かな学び、豊かな学び」の実現に向けて全県で共通して取り組み、学校での組織的な対応を展開することで、児童生徒一人一人の学力を保障し、豊かな人間の育成を図りたいと考えています。

【学力向上の目的】

豊かな人間の育成

▶考えられなかったことを考えられるようにする

▶判断できなかったことを判断できるようにする

▶表現できなかったことを表現できるようにする

児童生徒一人一人の学力を保障する

▶教員相互の参観による日常的な授業研究

▶思考・判断・表現を支援する言語環境の整備

▶諸調査結果の活用による授業改善のサイクル化

▶教科や学年・校種を越えた横断的、縦断的な取組

県単での共通の取組

学校での共通の取組

「いわての授業づくり3つの視点」

により「確かな学び、豊かな学び」を実現する

視点1 見通し

視点2 学習活動

視点3 振り返り

◆3つの視点は、学習規律の徹底と温かい人間関係のある学級づくりの上に成り立つものです。

「いわての授業づくり3つの視点」

視点1 学習の見通し

■児童生徒の姿■

★学習課題（学習問題）を設定し、学習のゴールを見通す

- ・この時間で、何ができるようになっていけばよいか、何がわかればよいかをつかんでいる。
- ・課題が、自分にとってどのような意味(役に立つ、楽しいなど)をもつのかを理解している。

★学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習内容を見通す

- ・既習内容を用いて解決する場合、どの既習内容を活用すればよいかを確認している。
- ・既習内容を発展させて解決する場合、どの既習内容と関連付ければよいかを予想している。
- ・新しい知識や技能を必要とする場合、先生や友達の説明などにより解決方法を理解している。

★学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習プロセスを見通す

- ・学習プロセスを形態、活動内容、時間などで捉え、どのように学ぶのかを理解している。

【指導の留意点】

- ◎児童生徒一人一人が、自分の学習課題（学習問題）として捉えることができるように工夫する。
- ◎身に付けさせたい力、学習活動、時間内に解決できることを意識した学習課題（学習問題）とする。
- ◎指導者が、学習課題の解決に取り組んでみた上で、学習内容や学習プロセスなどを構想する。

視点2 学習課題(学習問題)を解決するための学習活動

■児童生徒の姿■

★学習課題（学習問題）を解決するために学習活動をする

- ・「学習の見通し」に沿って、主体的に学習している。
- ・思考方法や表現方法、語彙や用語などを理解し、その時点での自分の考えをまとめている。
- ・自分の考えをもって、ペアやグループ・全体での学習に臨み、自分の考えを発表したり友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりしている。
- ・わからないことは、自分で調べたり友達や先生に質問したりしている。

★一人一人が学習課題(学習問題)を解決する

- ・学習課題について、協働的な学習を通して深まったり広がったりした内容を、理由や根拠がわかるように記述したり話したりして、一人一人が自分の考えをまとめている。

【指導の留意点】

- ◎学習課題（学習問題）を解決するための手立てや視点、学習活動の方法について具体的に指導する。
- ◎学習課題（学習問題）を解決するために、主体的・協働的な学習展開となるように工夫する。
- ◎児童生徒一人一人が、身に付けるべき力を確実に身に付けることができるような学習活動にする。

視点3 学習の振り返り

■児童生徒の姿■

★学習内容を振り返ったり、学習の成果を実感したりする

- ・授業を通して、できるようになったこと、できなかったこと、わかったこと、わからなかったこと、興味をもったことなどについて、自分の言葉で説明している。
- ・評価問題を解いたり身に付いた力を確認したりして、学習の成果を実感している。

★学習プロセスを振り返ったり、協働的な学習活動の良さを実感したりする

- ・どのような学習プロセスによって自分がどのように変容したのかなどについて、自分の言葉で説明したり、「友達から学ぶことができた」など、学習活動の良さを実感したりしている。

【指導の留意点】

- ◎学習の見通しで見通した、ゴールや学習内容、学習プロセスに照らして、振り返られるように工夫する。
- ◎必要に応じ、児童生徒の自己評価・相互評価、評価問題、教師の評価を適切に位置付ける。
- ◎児童生徒一人一人が自分の学習について、達成感や有用感を自覚できるように工夫する。

(3) 諸調査結果の活用の視点と組織的対応

諸調査結果の活用の視点として、特に以下の点に留意していく必要がある。

- ① 平均値のみでなく、集団の分布状況を見て、自校の現状に合った検証改善サイクル（CAPD）を構築すること。
- ② 学校の課題となっている小間について出題意図を読み取り、課題状況の要因を日常の授業と関連させて分析し、確実に指導改善に繋げること。
- ③ 教科横断的に見たり、意識調査との相関で見たりするなど、データを多面的に見て分析すること。
- ④ 当該学年・教科のみの取組とせず、学校として組織的な取組を行うこと。
- ⑤ 調査結果を活用した一層の校種間連携を図ること。

(4) 諸調査結果を日々の授業や学力保障の取組の検証機会とする指導改善のサイクル化

県教育委員会では、学校で行われる学力関係調査を児童生徒の学力保障の取組の検証機会として位置付け、指導改善に向けた検証改善サイクル（CAPD）を確立するため、岩手県学習定着度状況調査について以下のような見直しを行った。

- ① 児童生徒一人一人の学習の定着状況を把握するため、小学校5年と中学校2年を基軸とし、小学校4教科、中学校5教科で実施する。
- ② 中学校1年の県学調は、4月実施の「中学校新入生学習状況調査」と改め、小学校段階の学習内容（国語・算数）の定着状況を把握し、その後の指導に役立てる。
- ③ 中学校1年の英語については、課題状況のよりの確な把握のため、県学調と切り離し、3学期に「中学1年生英語確認調査（CAN-DOテスト）」として実施する。

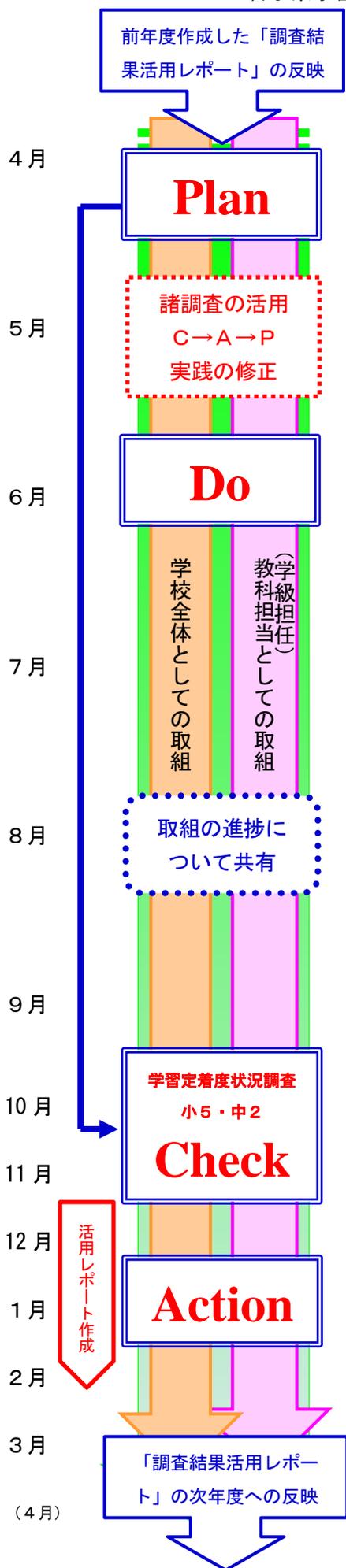
これに、小学校6年と中学校3年の4月に実施される全国学力・学習状況調査の結果や、各市町村及び各学校で実施される諸調査の結果を関連付けながら分析を行い、各校の取組を検証する。

加えて、県内の公立高校で実施されている高校基礎力確認調査の結果を中学校と共有することで、中学校段階における学習内容の定着状況を把握するとともに、中高の教員が連携して課題状況の分析及び解決に向けた取組を展開していく。

検証の機会として位置付けるため見直した県学調・全国学調等の実施スケジュール（H27.12月現在）

		県で実施する学力関係調査	全国調査及び市町村で実施する調査等	
小学5年	10月	学習定着度状況調査 国語・算数・理科・社会		
小学6年			4月	全国学力・学習状況調査 国語・算数（理科）
中学1年	4月	中学校新入生学習状況調査 国語・数学		
	1月	中学1年生英語確認調査 （CAN-DOテスト）		
中学2年	10月	学習定着度状況調査 国語・数学・英語・理科・社会		
中学3年	10月	英語チャレンジテスト	4月	全国学力・学習状況調査 国語・数学（理科）
高校1年	4月	高校基礎力確認調査 国語・数学・英語		

これらの諸調査を活用したPDCAサイクルの例を次頁で紹介する。これを参考にしながら各校で計画を立て、県内全ての小中学校で組織的な取組が推進されることを期待する。



Plan 目標、手立て、計画、検証方法の共有

* 校内主題研究との関連付けが図られているか

<目標>

* 検証可能な目標となっているか

<手立ての焦点化・重点化と取組計画>

* 学校全体及び教科担当・学級担任（教科部会・学年会）で「誰が、何を、いつ、どのように」取り組むのか

* 学校全体の取組計画や体制の組織化

<検証、評価方法>

* 何をもちて検証、評価するのか

* 誰が検証、評価するのか

Do 組織的、計画的な実践

* 学校全体での取組と教科担当・学級担任の取組の進捗の共有化

* 諸調査（全国学力・学習状況調査や市町村が独自に行っている調査）を形成的な評価として活用した実践の修正

* 県の「課題克服のための重点目標と具体的取組」

イ 全職員で取り組む校内体制の整備と実践

①学級や教科、学年を超えた取組、主任層が中核となった取組

③県学調や全国学調の問題を解いてみる機会の設定等による今求められる学力の把握と日常の授業への関連付け

ウ 校種間連携の一層の推進

②小問分析から見えた課題の解決 ※詳細は、学校教育指導指針を参照

Check 多面的な検証、評価

<目標の検証>

* 目標の達成度

<学校取組の評価>

* 学校全体での取組の成果と課題

* 教科担当・学級担任の取組の成果と課題

↓

* 目標を上回った（下回った）要因は何かについての分析・検討

* 学力の3つの要素から、教科調査結果に偏らない分析

Action Check を具体的Actionへ

<次年度に向けた目標設定>

* 優先して取り組むべき課題の明確化

※教科の目標だけでなく、質問紙調査の目標も設定し、学校全体で目標を設定

* 次年度の学習定着度状況調査に向けた検証可能な目標を設定

<手立ての焦点化・重点化と取組計画>

* 課題の解決のために、学校全体及び教科担当・学級担任が「誰が、何を、いつ、どのように」取り組むのか

* 学校全体の取組計画や体制の組織化

<検証、評価方法>

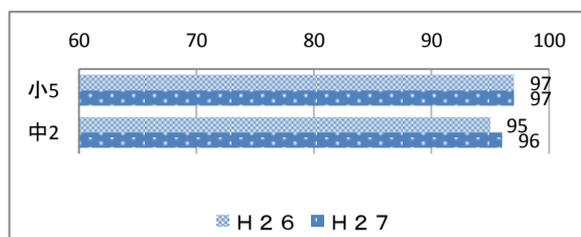
* 何をもちて検証、評価するのか

* 誰が検証、評価するのか

○児童生徒質問紙調査項目結果一覧

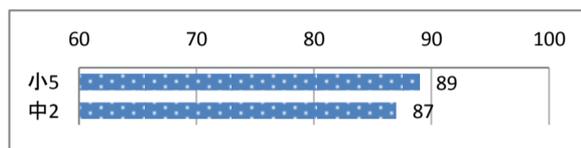
質問事項1:朝食を毎日食べていますか。

学年	年	食べている	どちらかといえば食べている	あまり食べていない	全く食べていない
小学5年	H26	88	9	2	1
		97			3
小学5年	H27	89	8	3	0
		97		3	
中学2年	H26	85	10	3	2
		95		5	
中学2年	H27	87	9	3	1
		96		4	



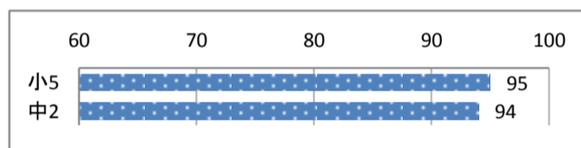
質問事項2:学校に行くのは楽しいと思いますか。

学年	年	楽しいと思う	どちらかといえば楽しいと思う	どちらかといえば楽しいと思わない	楽しいと思わない
小学5年	H27	55	34	8	3
		89		11	
中学2年	H27	49	38	8	4
		87		12	



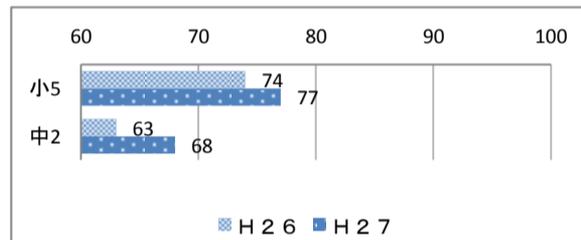
質問事項3:ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

学年	年	楽しいと思う	どちらかといえば楽しいと思う	どちらかといえば楽しいと思わない	楽しいと思わない
小学5年	H27	70	25	4	2
		95		6	
中学2年	H27	70	24	4	2
		94		6	



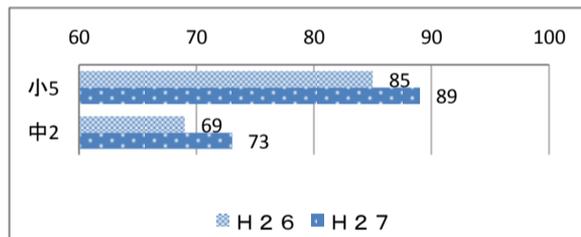
質問事項4:自分にはよいところがあると思いますか。

学年	年	あると思う	どちらかといえばあると思う	どちらかといえばないと思う	ないと思う
小学5年	H26	26	48	16	9
		74		25	
小学5年	H27	32	45	16	8
		77		24	
中学2年	H26	18	45	22	15
		63		37	
中学2年	H27	23	45	20	11
		68		31	



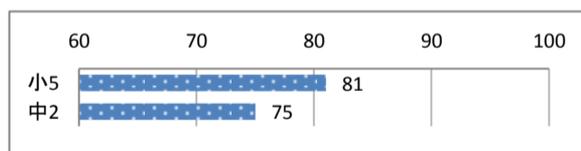
質問事項5:あなたは、将来の夢や目標をもっていますか。

学年	年	もっている	どちらかといえばもっている	どちらかといえばもっていない	もっていない
小学5年	H26	59	26	9	7
		85		16	
小学5年	H27	70	19	7	4
		89		11	
中学2年	H26	38	31	17	14
		69		31	
中学2年	H27	42	31	14	11
		73		25	



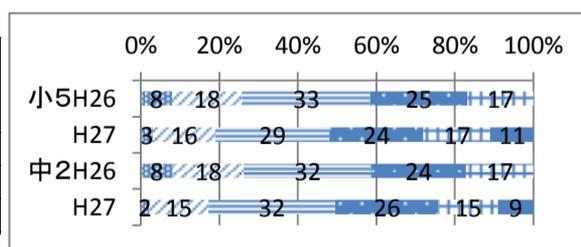
質問事項6:家の人(兄弟姉妹は除く)と学校での出来事について話しをしますか。

学年	年	話しをしている	どちらかといえば話しをしている	あまり話しをしていない	全く話しをしていない
小学5年	H27	52	29	15	4
		81		19	
中学2年	H27	43	32	18	6
		75		24	



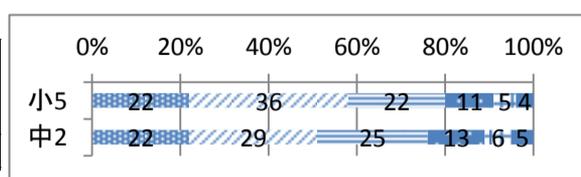
質問事項7:1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。

学年	年	全く見たり聞いたりしない H26:ほとんど見ない	1時間より少ない	1時間以上2時間より少ない	2時間以上3時間より少ない	3時間以上4時間より少ない	4時間以上
小学5年	H26	8	18	33	25	17	—
	H27	3	16	29	24	17	11
中学2年	H26	8	18	32	24	17	—
	H27	2	15	32	26	15	9



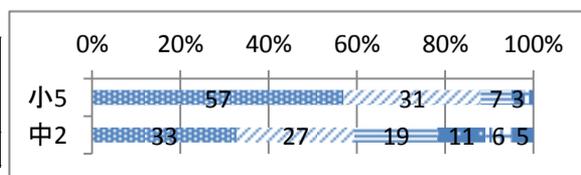
質問事項8:1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

学年	年	全くしない	1時間より少ない	1時間以上2時間より少ない	2時間以上3時間より少ない	3時間以上4時間より少ない	4時間以上
小学5年	H27	22	36	22	11	5	4
	中学2年	H27	22	29	25	13	6



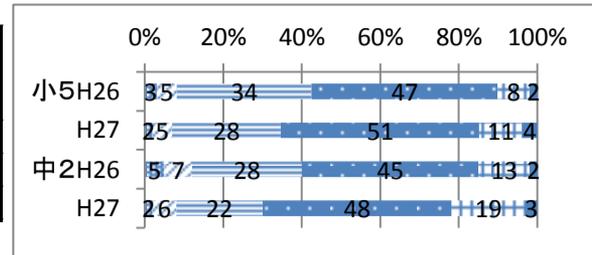
質問事項9:1日にどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをしますか。

学年	年	携帯電話やスマートフォンを持っていない	1時間より少ない	1時間以上2時間より少ない	2時間以上3時間より少ない	3時間以上4時間より少ない	4時間以上
小学5年	H27	57	31	7	3	1	1
	中学2年	H27	33	27	19	11	6



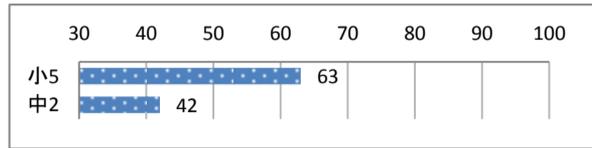
質問事項10: 学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間、勉強しますか。

学年	年	全くしない	30分より少ない	30分以上1時間より少ない	1時間以上2時間より少ない	2時間以上3時間より少ない	3時間以上
小学5年	H26	3	5	34	47	8	2
	H27	2	5	28	51	11	4
中学2年	H26	5	7	28	45	13	2
	H27	2	6	22	48	19	3



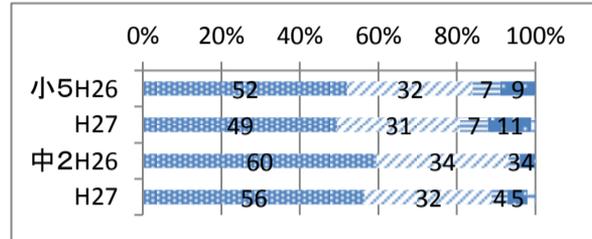
質問事項11: 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

学年	年	している	どちらかといえばしている	どちらかといえばしていない	していない
小学5年	H27	25	38	22	15
		63		37	
中学2年	H27	9	33	34	24
		42		58	



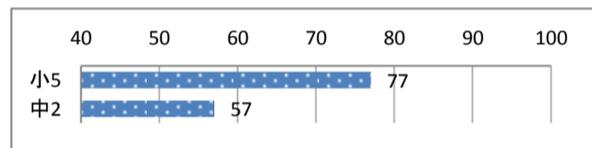
質問事項12: 家で勉強する内容は、次のどれが多いですか。

学年	年	宿題だけ	宿題のほかに復習をする	宿題のほかに予習をする	宿題のほかに予習と復習をする	勉強していない
小学5年	H26	52	32	7	9	—
	H27	49	31	7	11	1
中学2年	H26	60	34	3	4	—
	H27	56	32	4	5	2



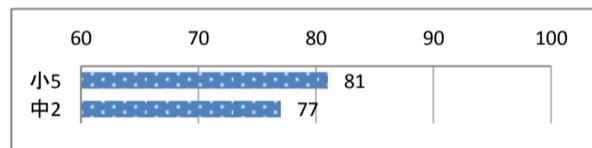
質問事項13: 家で調べたり、文章を書いたりする宿題があると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	H27	40	37	15	8
		77		23	
中学2年	H27	20	37	26	16
		57		42	



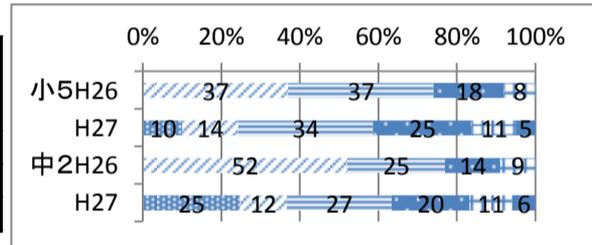
質問事項14: 読書は好きですか。

学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H27	46	35	13	6
		81		19	
中学2年	H27	44	33	14	8
		77		22	



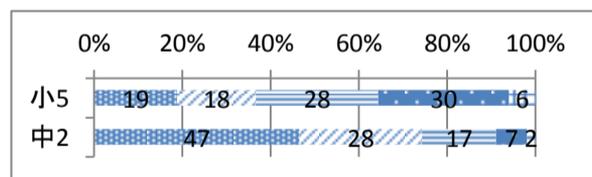
質問事項15: 学校の授業以外で1日にどれくらいの時間、読書を読みますか。

学年	年	全くしない	10分より少ない	10分以上30分より少ない	30分以上1時間より少ない	1時間以上2時間より少ない	2時間以上
小学5年	H26	37	37	18	8	—	
	H27	10	14	34	25	11	5
中学2年	H26	52	25	14	9	—	
	H27	25	12	27	20	11	6



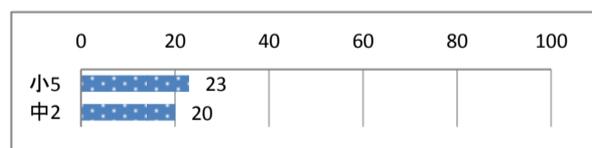
質問事項16: 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校の図書館(図書室)や地域の図書館にどれくらい行きますか。

学年	年	ほとんどまたは全く行かない	年に数回程度行く	月に1~3回程度行く	週に1~3回程度行く	だいたい週に4回以上行く
小学5年	H27	19	18	28	30	6
	中学2年	H27	47	28	17	7



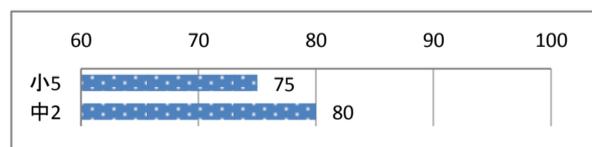
質問事項17: 新聞を読んでいますか。

学年	年	ほぼ毎日読んでいる	週に1~3回程度読んでいる	月に1~3回程度読んでいる	ほとんどまたは全く読まない
小学5年	H27	8	15	22	55
		23		77	
中学2年	H27	7	13	20	60
		20		80	



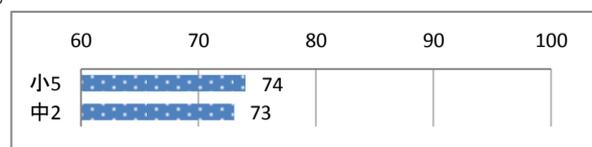
質問事項18: テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

学年	年	よく見る	どちらかといえば見る	あまり見ない	全く見ない
小学5年	H27	43	32	17	8
		75		25	
中学2年	H27	45	35	14	5
		80		19	



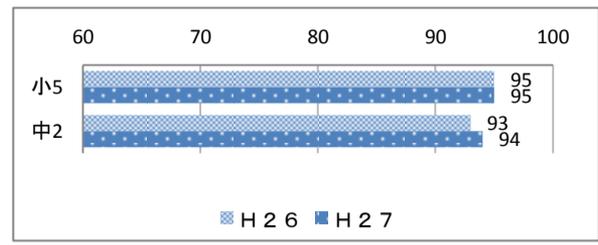
質問事項19: 先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	H27	28	46	18	8
		74		26	
中学2年	H27	21	52	19	8
		73		27	



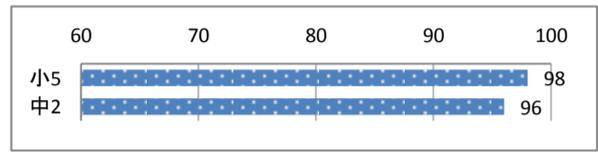
質問事項20: 人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H26	56	39	4	1
	H27	60	35	4	0
		95		4	
中学2年	H26	45	48	5	2
	H27	50	44	4	2
		94		6	



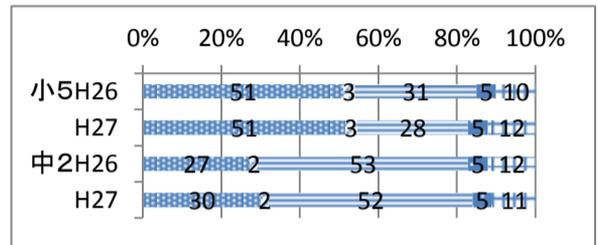
質問事項21: いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H27	84	14	2	0
		98		2	
中学2年	H27	78	18	3	1
		96		4	



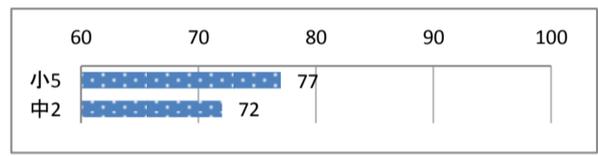
質問事項22: 自分が悩んでいることがあったとき、誰に相談することが多いですか。

学年	年	家族	学校の先生	友達	その他	相談する人はいない
小学5年	H26	51	3	31	5	10
	H27	51	3	28	5	12
中学2年	H26	27	2	53	5	12
	H27	30	2	52	5	11



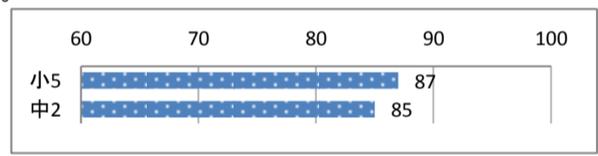
質問事項23: 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

学年	年	取り組んでいる	どちらかといえば 取り組んでいる	どちらかといえば 取り組んでいない	取り組んでいない
小学5年	H27	33	44	17	6
		77		23	
中学2年	H27	25	47	18	9
		72		27	



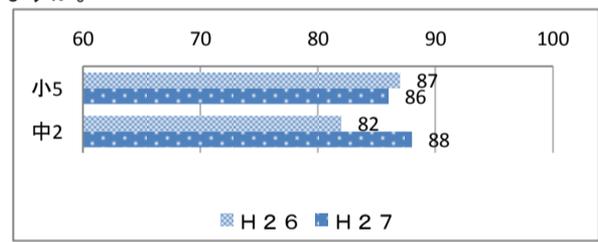
質問事項24: 普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H27	49	38	9	3
		87		12	
中学2年	H27	40	45	11	4
		85		15	



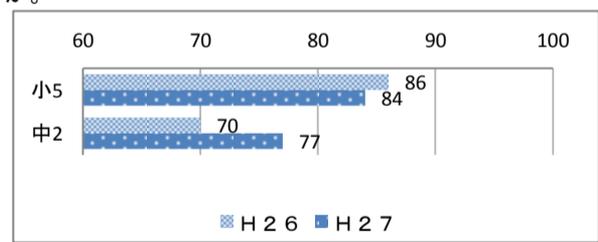
質問事項25: 普段の授業で、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)を確認していると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H26	53	34	9	3
	H27	55	31	10	4
		86		14	
中学2年	H26	37	45	13	5
	H27	53	35	8	4
		88		12	



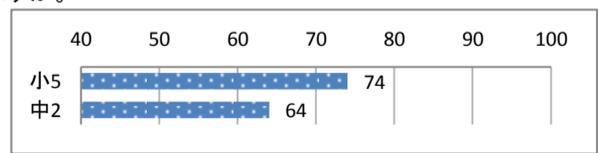
質問事項26: 普段の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H26	48	38	10	3
	H27	49	35	11	4
		84		15	
中学2年	H26	21	49	23	7
	H27	31	46	18	5
		77		23	



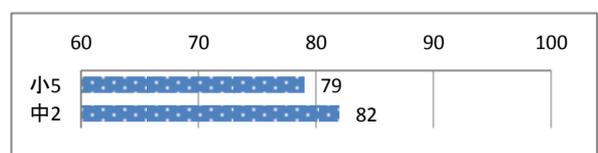
質問事項27: 普段の授業で、いろいろな資料を使って発表する活動を行っていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H27	28	46	20	5
		74		25	
中学2年	H27	20	44	28	7
		64		35	



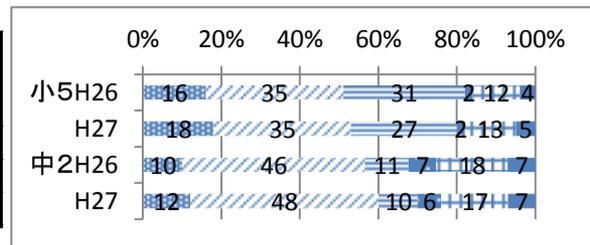
質問事項28: 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H27	36	43	15	5
		79		20	
中学2年	H27	38	44	13	5
		82		18	



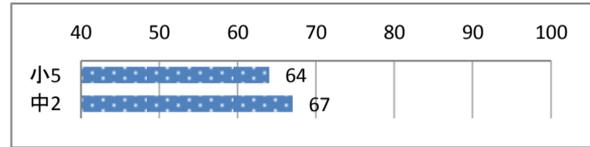
質問事項29: 学校の授業で分からないことがあった時、どうすることが多いですか。

学年	年	先生にたずねる	友達にたずねる	家の人にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにする
小学5年	H26	16	35	31	2	12	4
	H27	18	35	27	2	13	5
中学2年	H26	10	46	11	7	18	7
	H27	12	48	10	6	17	7



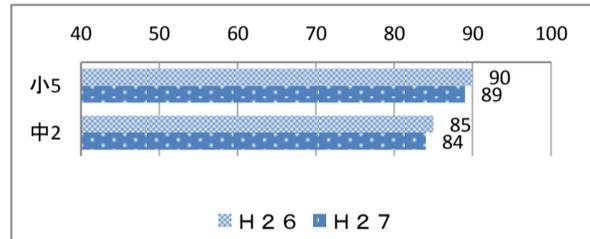
質問事項30: 国語の勉強は好きですか。

学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H27	24	40	24	12
		64		36	
中学2年	H27	23	44	24	9
		67		33	



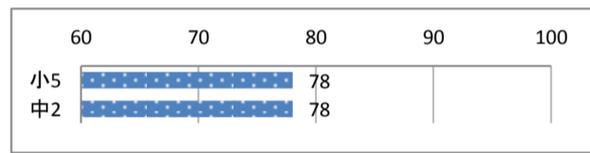
質問事項31: 国語の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	H26	41	49	8	2
		90		10	
小学5年	H27	39	50	9	2
		89		11	
中学2年	H26	30	55	12	4
		85		16	
中学2年	H27	27	57	13	4
		84		17	



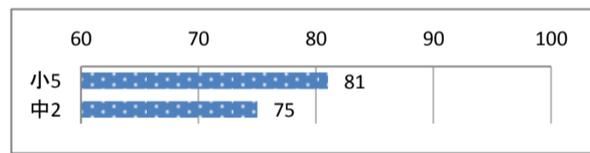
質問事項32: 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。

学年	年	よく当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H27	25	53	18	4
		78		22	
中学2年	H27	23	55	17	4
		78		21	



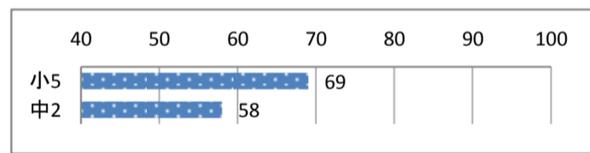
質問事項33: 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか。

学年	年	よく当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H27	34	47	15	4
		81		19	
中学2年	H27	23	52	21	5
		75		26	



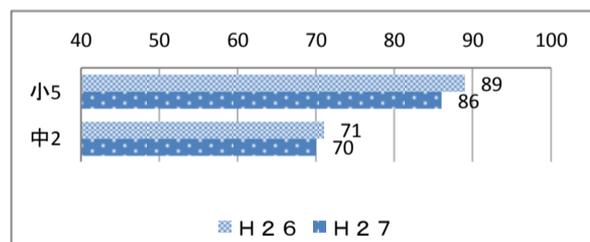
質問事項34: 算数・数学の勉強は好きですか。

学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H27	40	29	19	13
		69		32	
中学2年	H27	28	30	25	17
		58		42	



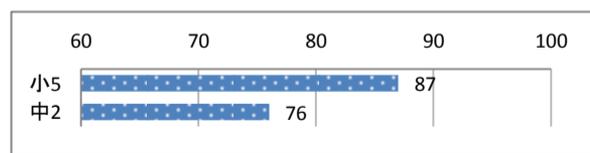
質問事項35: 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	H26	50	39	8	3
		89		11	
小学5年	H27	47	39	11	6
		86		17	
中学2年	H26	29	42	19	10
		71		29	
中学2年	H27	29	41	21	9
		70		30	



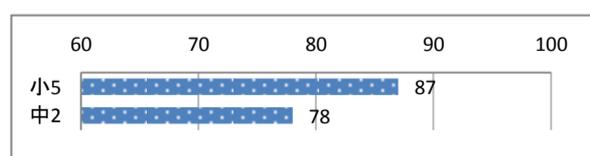
質問事項36: 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか。

学年	年	よくしている	どちらかといえばしている	どちらかといえばしていない	していない
小学5年	H27	44	43	10	3
		87		13	
中学2年	H27	31	45	17	6
		76		23	



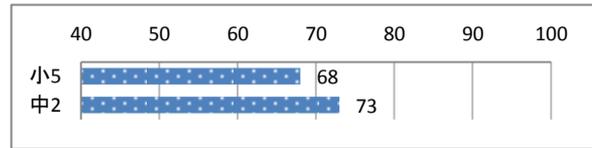
質問事項37: 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

学年	年	よく考える	どちらかといえば考える	あまり考えない	全く考えない
小学5年	H27	47	40	11	2
		87		13	
中学2年	H27	35	43	17	5
		78		22	



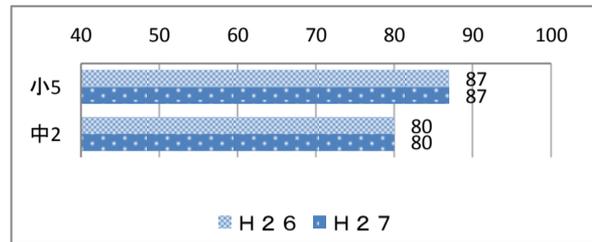
質問事項38: 社会の勉強は好きですか。

学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H27	36	32	20	12
		68		32	
中学2年	H27	39	34	18	9
		73		27	



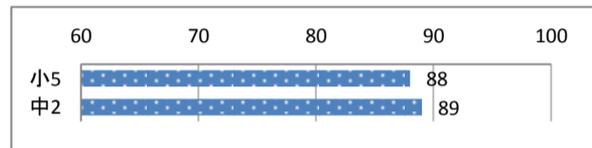
質問事項39: 社会の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	H26	45	42	10	3
		87		13	
小学5年	H27	46	41	10	3
		87		13	
中学2年	H26	35	45	14	5
		80		19	
中学2年	H27	36	44	15	5
		80		20	



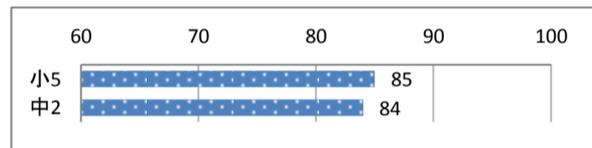
質問事項40: 社会の授業で学習問題(学習課題)を解決するとき、資料から関係のあることを読み取る活動を行っていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	H27	52	36	9	3
		88		12	
中学2年	H27	48	41	9	3
		89		12	



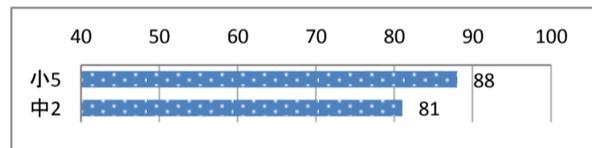
質問事項41: 社会の授業で、資料から読み取ったことなどをもとに、学習問題(学習課題)について考える活動を行っていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	H27	43	42	12	3
		85		15	
中学2年	H27	40	44	13	4
		84		17	



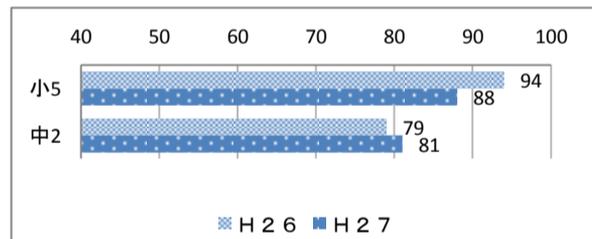
質問事項42: 理科の勉強は好きですか。

学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H27	62	26	8	4
		88		12	
中学2年	H27	36	45	14	5
		81		19	



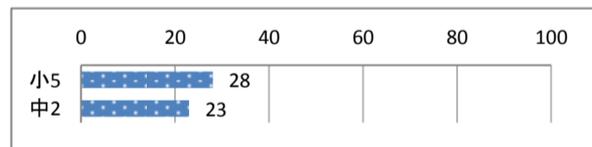
質問事項43: 理科の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	H26	63	31	5	1
		94		6	
小学5年	H27	62	26	8	4
		88		12	
中学2年	H26	33	46	15	6
		79		21	
中学2年	H27	36	45	14	5
		81		19	



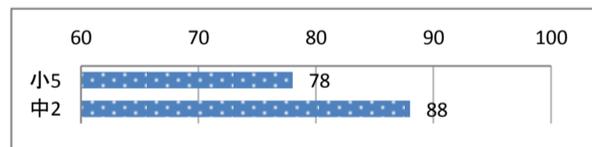
質問事項44: 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	H27	12	16	31	42
		28		73	
中学2年	H27	9	14	29	47
		23		76	



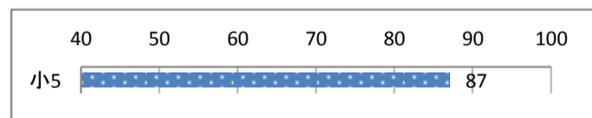
質問事項45: 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行っていますか。

学年	年	週1回以上	月1回以上	学期に1回以上	ほとんどまたは全く行っていない
小学5年	H27	18	60	18	4
		78		22	
中学2年	H27	31	57	9	3
		88		12	



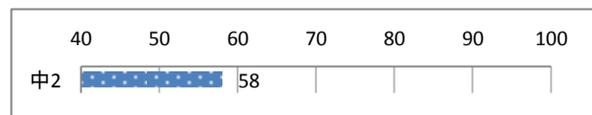
【小学校】質問事項46: 外国語活動の授業は好きですか。

学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H27	62	25	8	5
		87		13	



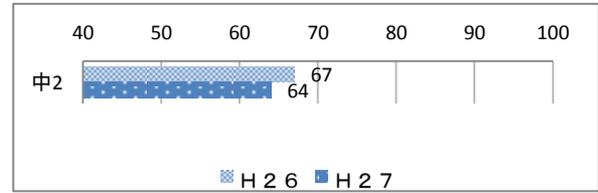
【中学校】質問事項46: 英語の勉強は好きですか。

学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H27	26	32	25	17
		58		42	



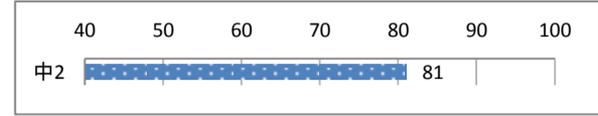
【中学校】質問事項47: 英語の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえは分かる	どちらかといえは分からない	分からない
中学2年	H26	25	42	21	12
	H27	24	40	23	13
		64		36	



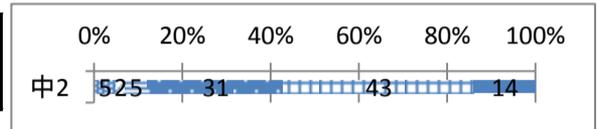
【中学校】質問事項48: 英語の授業で、まとまりのある英文を聞いたり読んだりして、文章全体の概要や要点をとらえる活動をしていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
中学2年	H27	39	42	13	7
			81		20



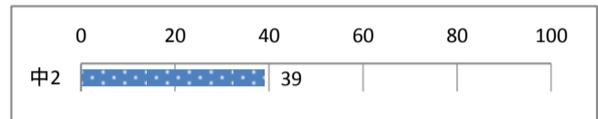
【中学校】質問事項49: 将来、どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。

学年	年	国際社会で活躍できる	海外の大学などに進学できる	高校・大学などで海外に短期留学できる	外国人とコミュニケーションを楽しめる	高校入試に対応できる	学校の授業以外での利用を考えていない
中学2年	H27	5	2	5	31	43	14



【中学校】質問事項50: 国語・数学・社会・理科・英語の授業で、先生やあなた、クラスの人が、パソコンや電子黒板、タブレット、実物投影機、プロジェクターなどの情報機器を使って、説明したり発表したりする場面があると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
中学2年	H27	14	25	25	36
			39		61



○学校質問紙調査項目結果一覧

2015/10/7時点で回答

2014/10/1時点で回答

<岩手県>

H27の状況

H26の状況

	小学校		中学校	
回答校数	337	100.0%	167	100.0%

	小学校		中学校	
	344	100.0%	168	100.0%

【授業】(学習調査対象学年)

1 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を行っていますか。

	小学校		中学校	
1				
よく行っている	299	89.0%	124	74.3%
どちらかといえば行っている	37	11.0%	43	25.7%
あまり行っていない	0	0.0%	0	0.0%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	285	82.8%	130	77.4%
どちらかといえば行っている	58	16.9%	38	22.6%
あまり行っていない	1	0.3%		0.0%
まったく行っていない		0.0%		0.0%

2 授業の最後に学習したことを振り返る活動を行っていますか。

	小学校		中学校	
2				
よく行っている	168	50.0%	62	37.1%
どちらかといえば行っている	164	48.8%	102	61.1%
あまり行っていない	4	1.2%	3	1.8%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	168	48.8%	77	45.8%
どちらかといえば行っている	167	48.5%	89	53.0%
あまり行っていない	9	2.6%	2	1.2%
まったく行っていない		0.0%		0.0%

3 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、(小学校外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。

	小学校		中学校	
3				
よく行っている	132	39.3%	50	29.9%
どちらかといえば行っている	197	58.6%	110	65.9%
あまり行っていない	7	2.1%	7	4.2%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

4 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。

	小学校		中学校	
4				
よく行っている	126	37.5%	42	25.1%
どちらかといえば行っている	203	60.4%	118	70.7%
あまり行っていない	7	2.1%	7	4.2%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	136	39.5%	50	29.8%
どちらかといえば行っている	201	58.4%	109	64.9%
あまり行っていない	7	2.0%	9	5.4%
まったく行っていない		0.0%		0.0%

5 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めていますか。

	小学校		中学校	
5				
よく行っている	174	51.8%	53	31.7%
どちらかといえば行っている	159	47.3%	113	67.7%
あまり行っていない	3	0.9%	1	0.6%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	179	52.0%	69	41.1%
どちらかといえば行っている	163	47.4%	95	56.5%
あまり行っていない	2	0.6%	4	2.4%
まったく行っていない		0.0%		0.0%

6 本時の指導目標が達成できたかどうかを、教師が確認する場面を授業に位置付けていますか。

	小学校		中学校	
6				
よく行っている	77	22.9%	33	19.8%
どちらかといえば行っている	247	73.5%	120	71.9%
あまり行っていない	12	3.6%	14	8.4%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	102	29.7%	46	27.4%
どちらかといえば行っている	225	65.4%	106	63.1%
あまり行っていない	17	4.9%	16	9.5%
まったく行っていない		0.0%		0.0%

7 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底していますか。

	小学校		中学校	
7				
よく行っている	208	61.9%	86	51.5%
どちらかといえば行っている	125	37.2%	80	47.9%
あまり行っていない	3	0.9%	1	0.6%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	197	57.3%	105	62.5%
どちらかといえば行っている	144	41.9%	63	37.5%
あまり行っていない	3	0.9%		0.0%
まったく行っていない		0.0%		0.0%

8 学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をしていますか。

	小学校		中学校	
8				
よく行っている	207	61.6%	83	49.7%
どちらかといえば行っている	127	37.8%	81	48.5%
あまり行っていない	2	0.6%	3	1.8%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	214	62.2%	94	56.0%
どちらかといえば行っている	129	37.5%	73	43.5%
あまり行っていない	1	0.3%	1	0.6%
まったく行っていない		0.0%		0.0%

9 児童生徒に対して、資料を使って発表ができるよう指導していますか。

	小学校		中学校	
9				
よく行っている	32	9.5%	14	8.4%
どちらかといえば行っている	255	75.9%	118	70.7%
あまり行っていない	49	14.6%	35	21.0%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	49	14.2%	17	10.1%
どちらかといえば行っている	244	70.9%	117	69.6%
あまり行っていない	51	14.8%	33	19.6%
まったく行っていない		0.0%	1	0.6%

10 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていますか。

	小学校		中学校	
10				
よく行っている	64	19.0%	19	11.4%
どちらかといえば行っている	250	74.4%	135	80.8%
あまり行っていない	22	6.5%	13	7.8%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

	小学校		中学校	
よく行っている	84	24.4%	23	13.7%
どちらかといえば行っている	237	68.9%	122	72.6%
あまり行っていない	23	6.7%	22	13.1%
まったく行っていない		0.0%	1	0.6%

11 児童生徒に対して、発展的な学習の指導を行いましたか。

11	小学校		中学校	
よく行っている	16	4.8%	9	5.4%
どちらかといえば行っている	204	60.7%	79	47.3%
あまり行っていない	116	34.5%	79	47.3%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

12 学習内容に応じて、チームティーチングによる指導を行っていますか。(算数・数学)

12	小学校		中学校	
年間の授業のうち、およそ 3/4 以上で行った	54	16.1%	52	31.1%
年間の授業のうち、およそ 1/2 以上 3/4 未満で行った	45	13.4%	12	7.2%
年間の授業のうち、およそ 1/4 以上 1/2 未満で行った	41	12.2%	35	21.0%
年間の授業のうち、およそ 1/4 未満で行った	99	29.5%	40	24.0%
行っていない	97	28.9%	28	16.8%

13 学習内容に応じて、習熟度別の少人数による指導を行っていますか。(算数・数学)

13	小学校		中学校	
年間の授業のうち、およそ 3/4 以上で行った	15	4.5%	8	4.8%
年間の授業のうち、およそ 1/2 以上 3/4 未満で行った	18	5.4%	5	3.0%
年間の授業のうち、およそ 1/4 以上 1/2 未満で行った	19	5.7%	9	5.4%
年間の授業のうち、およそ 1/4 未満で行った	83	24.7%	34	20.4%
行っていない	201	59.8%	111	66.5%

H26の選択肢は、上から「多くの時間で行っている」「どちらかといえば行っている」「あまり行っていない」「行っていない」

小学校		中学校	
50	14.5%	16	9.5%
103	29.9%	42	25.0%
93	27.0%	60	35.7%
98	28.5%	50	29.8%

14 コンピュータ等の情報通信技術(パソコン、タブレット端末、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネット等)を活用した授業を1クラス当たりどの程度行っていますか。

14	小学校		中学校	
週1回以上	76	22.6%	42	25.1%
月1回以上	193	57.4%	59	35.3%
学期に1回以上	66	19.6%	58	34.7%
ほとんど、または、全く行っていない	1	0.3%	8	4.8%

【家庭学習】

15 授業と連動した家庭学習の課題(宿題)を、計画的に出していますか。(小5算数、中2数学・英語)

15	小学校		中学校	
授業と連動した課題(宿題)を、計画的に出している	189	56.3%	69	41.3%
授業と連動した課題(宿題)を、計画的に出しているが、十分ではない	123	36.6%	75	44.9%
授業と連動した課題(宿題)を出しているが、計画的な取組にはなっていない	24	7.1%	22	13.2%
授業と連動した課題(宿題)はほとんど出していない	0	0.0%	1	0.6%

小学校		中学校	
190	55.4%	85	50.6%
129	37.6%	66	39.3%
24	7.0%	17	10.1%
	0.0%		0.0%

16 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えていますか。

16	小学校		中学校	
よく行っている	34	10.1%	6	3.6%
どちらかといえば行っている	204	60.5%	56	33.5%
あまり行っていない	99	29.4%	104	62.3%
まったく行っていない	0	0.0%	1	0.6%

17 基礎的内容の問題に、年間を通じて計画的・継続的に取り組ませていますか。

17	小学校		中学校	
よく行っている	212	62.9%	71	42.5%
どちらかといえば行っている	119	35.3%	81	48.5%
あまり行っていない	6	1.8%	15	9.0%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
204	59.3%	60	35.7%
136	39.5%	96	57.1%
4	1.2%	12	7.1%
	0.0%		0.0%

18 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。

18	小学校		中学校	
当てはまる	189	56.1%	65	38.9%
どちらかといえば当てはまる	139	41.2%	80	47.9%
どちらかといえば、当てはまらない	7	2.1%	22	13.2%
当てはまらない	2	0.6%	0	0.0%

小学校		中学校	
216	62.8%	57	33.9%
123	35.8%	97	57.7%
5	1.5%	14	8.3%
	0.0%		0.0%

19 保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行っていますか。

19	小学校		中学校	
よく行っている	164	48.7%	35	21.0%
どちらかといえば行っている	164	48.7%	110	65.9%
あまり行っていない	9	2.7%	22	13.2%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

【学校の取組】

20 県学習定着度状況調査について、目標を設定して計画的に取り組みましたか。

20	小学校		中学校	
目標を設定し取り組んだ	148	43.9%	35	21.0%
目標を設定し取り組んだが、十分ではない	186	55.2%	124	74.3%
目標を設定したが、取り組めなかった	2	0.6%	5	3.0%
目標を設定しなかった	1	0.3%	3	1.8%

小学校		中学校	
147	42.9%	41	24.4%
189	55.1%	111	66.1%
3	0.9%	9	5.4%
4	1.2%	7	4.2%

21 昨年度の調査結果を参考にするなどして、分かる授業の工夫・改善に取り組んでいますか。

21	小学校		中学校	
積極的にしている	135	40.1%	41	24.6%
どちらかといえば行っている	198	58.8%	117	70.1%
あまり行っていない	4	1.2%	9	5.4%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
145	42.2%	45	26.8%
190	55.2%	117	69.6%
9	2.6%	6	3.6%
	0.0%		0.0%

22 昨年度の諸調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

22	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
よく行った	79	23.4%	19	11.4%
行った	249	73.9%	141	84.4%
ほとんど行っていない	9	2.7%	7	4.2%

23 昨年度の県学調の結果を全国学調と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。

23	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
よく行った	54	16.0%	11	6.6%
行った	268	79.5%	144	86.2%
ほとんど行っていない	15	4.5%	12	7.2%

24 県学調・全国学調の問題の一部を、全教員で解いてみる時間を設定しましたか。

24	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
設定し、実施した	187	55.5%	28	16.8%
設定し、年度中に実施予定である	125	37.1%	81	48.5%
設定していない	25	7.4%	58	34.7%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
156	45.3%	25	14.9%
161	46.8%	80	47.6%
27	7.8%	63	37.5%

25 授業改善に向けて、校内研修に位置付けた教員相互の授業参観に取り組んでいますか。

25	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
積極的に行っている	145	43.0%	65	38.9%
どちらかといえば行っている	127	37.7%	70	41.9%
あまり行っていない	58	17.2%	31	18.6%
まったく行っていない	7	2.1%	1	0.6%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
163	47.4%	69	41.1%
131	38.1%	66	39.3%
46	13.4%	30	17.9%
4	1.2%	3	1.8%

26 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。

26	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	197	58.5%	42	25.1%
週に2～3回程度	114	33.8%	87	52.1%
月に数回程度	26	7.7%	36	21.6%
ほとんど行っていない	0	0.0%	2	1.2%

H26の選択肢は、上から「よく行っている」「どちらかといえば行っている」「あまり行っていない」「全く行っていない」

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
193	56.1%	76	45.2%
133	38.7%	82	48.8%
17	4.9%	10	6.0%
1	0.3%	0	0.0%

27 Gアップシートを活用(授業の補充、家庭学習等)していますか。

27	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
いる(中学校)			154	92.2%
いない(中学校)			13	7.8%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
		157	93.5%
		11	6.5%

28 昨年度の県学習定着度状況調査の「集計・分析シート」の内容等から、学習に関する状況や課題を全ての教員で共有し、学校として組織的に課題の分析や指導方法の改善等に取り組んでいますか。

28	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
積極的に行っている	71	21.1%	20	12.0%
どちらかといえば行っている	241	71.5%	128	76.6%
あまり行っていない	25	7.4%	19	11.4%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
86	25.0%	34	20.2%
221	64.2%	110	65.5%
35	10.2%	24	14.3%
2	0.6%		0.0%

29 昨年度の「調査結果活用レポート」に記載した調査結果の分析内容や目標設定、取組計画などについて、年度をまたいで教職員間で共有し、指導改善に向けて活用していますか。

29	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
積極的に行っている	52	15.4%	10	6.0%
どちらかといえば行っている	238	70.6%	119	71.3%
あまり行っていない	47	13.9%	38	22.8%
まったく行っていない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
61	17.7%	12	7.1%
221	64.2%	112	66.7%
60	17.4%	43	25.6%
2	0.6%	1	0.6%

30 平日の部活動や父母会の活動、スポーツ少年団等の活動について、部活動顧問や父母会・スポーツ少年団活動の責任者や指導者等に対して児童生徒の帰宅時刻が遅くならないよう、学校からの働きかけをしていますか。

30	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
よく行っている	12	3.6%	41	24.6%
どちらかといえば行っている	61	18.1%	83	49.7%
あまり行っていない	148	43.9%	30	18.0%
全く行っていない	57	16.9%	1	0.6%
帰宅時刻が遅くなる活動はない	59	17.5%	12	7.2%

31 県学調、(中学校新入生学調)、全国学調について、調査結果の児童生徒個別シートを速やかに返却していますか。

31	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
行っている	320	95.0%	157	94.0%
行っていない	17	5.0%	10	6.0%

32 県学調、(中学校新入生学調)、全国学調について、調査結果の児童生徒個別シートを用いた学習相談等の機会を設定していますか。

32	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
行っている	129	38.3%	70	41.9%
行っていない	208	61.7%	97	58.1%